

## 夫婦カウンセリングの現場からみる「話し合えない」夫婦たちの悩みとその関係調整 ——〈感情作業〉に着目して——

○岡田玖美子（大阪大学・院）

### 1. 背景と目的

近年、日本においても夫婦関係に関する悩みを扱う民間のカウンセリング・相談サービスが徐々に広がりつつある。本報告では、そのような専門家がサービスとしてカウンセリングや相談対応を行う実践を「夫婦カウンセリング」と呼ぶ。夫婦カウンセラーたちの専門性は、臨床心理士や公認心理士などの心理学的な資格によるものだけではなく、家族法などの司法に関する知識、コーチング、ひいては、当事者としての結婚生活・離婚の経験など、多岐にわたる。そのような個々のカウンセラーごとの専門性の違いはあっても、民間サービスの場合は、有料で専門家に相談するという点で共通する。「夫婦喧嘩は犬も食わない」という慣用句もあるように、夫婦関係の悩みは、家庭内暴力など喫緊性や命の危険を伴わない限り、自己解決が想定されやすいなかで、有料で専門家に相談するような悩みには、どのような背景があるのだろうか。

本報告では、夫婦カウンセリングの現場において、とくに夫婦が「話し合えない」状態に陥っている場合の悩みに焦点を当てる。その際、A. R. Hochschild (1979) の〈感情作業 emotion work〉概念を援用して、なぜ当該夫婦たちは「話し合えない」のか、そして、そのような状態に夫婦カウンセラーはどのように対応しうるのかを明らかにすることを目的とする。

### 2. 方法とデータ

本報告で用いるデータは、2022年2月および2023年2月に実施した、専門性の異なる5つの民間サービス機関における、計7名の夫婦カウンセラーへの半構造化インタビューから得たものである。インフォーマント7名は、いずれも10年前後、夫婦カウンセリングに携わっており、毎月数十件のペースで業務を行っている。守秘義務に反しない範囲で、どのような相談事例がみられるのか、どのように対応を行っているのかを中心に聞き取りを行った。それらのデータのなかで、本報告では、「話し合えない」状態にある悩みに関して、インフォーマントがとくに顕著なケースに挙げた事例と複数のカウンセラーで共通する事例を取り上げ、分析・考察を行った。

### 3. 結果と考察

夫婦が「話し合えない」悩みは、トピックとしては、コミュニケーション不全や性格の不一致などのすれ違い、片方のモラルハラスメント、セックスレスなど、多様であった。しかし、「話し合えない」状態については、①なんとなく話さない状態が続いているケース、②互いに意見をぶつけ合ったり、主張が平行線だったり、話し合いが困難なケース、③片方が話し合いに応じないケースに大別できた。それぞれの状態に陥る背景として、当該夫婦のこれまでの日常的なコミュニケーションの問題や性別役割分業などの役割規範をカウンセラーたちは想定していた。その見立てをもとに考察すると、夫婦の関係調整にとって必要不可欠な〈感情作業〉とその基準となる〈感情規則〉が、どのようにして「話し合えない」状態に帰結したのかがみえてきた。

また、「話し合えない」状態に対して、夫婦カウンセラーたちは、「話し合いの契機をつくる」、「第三者として双方の主張や考え方を整理し客観視させる」、「話し合いの際に補足や橋渡しをする」などの関係調整を行っていた。しかし、なかには、夫婦カウンセラーに「配偶者が変わるよう働きかける」ことを望む来談者も一定おり、そうした人びとへの対応の難しさについての言及もあった。これらの夫婦カウンセラーの語りの分析からは、事例によって程度の差はあるものの、夫婦間で〈感情作業〉に問題が生じている場合に、親密な関係の調整を一部〈感情労働 emotional labor〉として夫婦カウンセラーたちに有料で外部化しうるということが明らかになった。

[文献] Hochschild, A. R., 1979, "Emotion Work, Feeling Rules, and Social Structure," *American Journal of Sociology*, 85(3): 551-75.

キーワード：夫婦関係、感情作業、関係調整支援